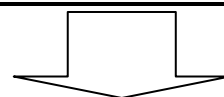


学習状況の実態・調査結果等を踏まえた内容別・観点別分析表

1年	2年	3年
<ul style="list-style-type: none"> 授業への関心・意欲があり、落ち着いて学習に取り組んでいる。 実験や観察に意欲的に取り組んでいる生徒が多い。 学力調査の達成度は、概ね良好であるが、化学実験の正確な方法や、比較・関連づけて考えたり、題意を理解して推論し解決する問題等に課題がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業への関心・意欲が高く、落ち着いて学習に取り組んでいるが、単元により苦手な教科と感じている生徒も多い。 知識・理解はおおむね良好であるが、思考・表現に関わる部分では基礎知識や観察結果をもとに考える力に課題がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業への関心・意欲があり、多くの生徒は積極的に取り組んでいる生徒が多い。 実験や観察に意欲的に取り組んでいる生徒が多い。 思考・表現では、わかったことを正確に言葉や文章に表現ですることや、進んで考えることができない生徒もみられる。 知識・理解では、おおむね良好であるが、生徒が理解できているが、理解したことをうまく整理できていない生徒もいる。



指導方法の課題分析と具体的な授業改善及び補充指導の計画

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
一 年	<p>植物の世界・身のまわりの物質</p> <ul style="list-style-type: none"> 実験や観察には、意欲的に取り組んでいるが、結果をノートやプリントにまとめることに時間を要するので十分な時間を取るようにする。 丁寧に指導していき、自分でまとめられるような力をつけさせる。その上で、班や個人で科学的思考を高めるよう課題を工夫する。 2単元を同時に学習しているので、授業のつながりが理解しにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> 映像による教育を多く取り入れていく。 ワークを利用して、学習状況の掌握 毎時間の学習目標や既習事項とのつながりを意識できるよう授業を展開する。 実験プリントで、自分で考えて穴埋めしていけるように工夫する。 実験や観察の考察で、班で考える活動などをできるだけ取り入れ、科学的思考力を高める機会をふやす。 単元ごとに小テストを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 映像による教材は、ただ見せるだけにとどまらず、課題をこなしながら映像を確認するなどの工夫を加えていく。 授業の間があくので、思い出しながら授業を展開する。 発展内容も授業に入れ、取り組ませることで内容の理解を助ける。 実験レポートやワークシートの提出の習慣化を図る。
二 年	<p>化学変化と原子、分子・動物の世界</p> <ul style="list-style-type: none"> 落ち着いて学習する雰囲気ができているので、関心・意欲につながるよう発展的内容も入れながら授業の展開を工夫していく。 物理、化学実験の方法を確認する時間をもうけて、振り返り学習させながら、基礎的操作方法の定着を図る。 科学的思考力を高める指導を計画的、継続的にしていく必要がある 目に見えない事象についてイメージが持ちにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> 数値処理に難がみられたため、日頃より数値処理が出てくる課題を多く取り入れていく。 実験・実習の機会を多くし、本物に触れたり、生活体験としてとらえられる機会を増やして関心・意欲を高めながら、学習内容の定着をはかる。 毎時間の学習目標や既習事項とのつながりを意識できるよう授業の展開をする。 実験や観察の考察で、班で考える活動などをできるだけ取り入れ、科学的思考力を高める機会をふやす。 視覚的に分かりやすくするために、映像や教材の工夫をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 数値処理の苦手な生徒に対して、別途に課題を与え、数値処理に対する対処法を学ばせていく。 基礎的なものを重視していく一方で、応用的な課題も多く取り入れていく。 実験レポートやワークシートの提出の習慣化を図る。 発展的問題を補充で扱いながら、考え方の手順を押さえ推論する。 単元の最後で、補充や発展の問題にも取り組ませて、科学的思考力も合わせて学力を高められるように学習する。
三 年	<p>生命の連続性、化学変化とイオン</p> <ul style="list-style-type: none"> 遺伝の規則性や化学変化とイオンについて基本的な理解はできているが、実験や観察を通して、科学的に考えようとする意欲を高める。 3年間の学習内容の関連性を理解させる工夫を加える。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容と関連ある日常の出来事についてできるだけ触れ、意欲を高めることにつなげる。 実験や観察など授業の目的や学習の流れをはっきり示して、自分で考える機会を増やし、理解しやすくする。 3年生の内容を学習しながら、1・2年の内容があれば戻り、系統的に学習内容が理解できるよう配慮する。 数値処理に難がみられたため、日頃より数値処理が出てくる課題を多く取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験レポートやワークシートの提出の習慣化を図る。 問題解決型のワークシートを作り、科学的思考を身につけさせる。 発展的問題を学習することにより、関連性を見つけ、理解しやすくする。 数値処理の苦手な生徒に対して、別途に課題を与え、数値処理に対する対処法を学ばせていく。